

みんながつながる 地域学校協働活動便り

NO.18

青森県教育庁生涯学習課地域連携推進グループ 総括的な役割を担う地域学校協働活動推進員 工藤 知久子
TEL:017-734-9890 E-mail: chikuko_kudo@mx.pref.aomori.jp

青森県教育委員会

令和7年度 地域と学校とのパートナーシップ強化事業 『地域学校協働活動研修』開催のご案内

～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に向けて～

青森県内6地区において、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進について理解と促進を図ることを目的に研修会を開催いたします。学校と地域の連携が求められる背景や、保護者と地域住民の当事者意識を高める方策、連携により学校や地域に期待される効果、学校運営協議会の活用法など、文部科学省CSマイスターをお招きして、全国の先進事例の紹介や模擬熟議を体験します。

テーマ コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に向けて					
期日	時間	地区	会場	講師	申込締切
7/4(金)	13:20~16:30	中南	弘前市立中央公民館 相馬館長慶閣	ふくしま学校と地域の未来研究所 代表 安齋 宏之氏	済
7/28(月)	//	上北	東北町北総合運動公園 トレーニングセンター	一般社団法人 S.PLACE 代表理事 井上 尚子氏	7/14(月)
7/29(火)	//	東青	青森県総合社会教育 センター	明星大学教育学部 特任教授 朝倉美由紀氏	7/15(火)
8/18(月)	//	西北	つがる市生涯学習交流 センター「松の館」	明星大学教育学部 特任教授 朝倉美由紀氏	8/4(月)
8/19(火)	//	下北	むつ市中央公民館	明星大学教育学部 特任教授 朝倉美由紀氏	8/5(火)
9/2(火)	//	三八	南部町総合保健福祉 センターゆとりあ	ふくしま学校と地域の未来研究所 代表 安齋 宏之氏	8/19(火)
対象者	<ul style="list-style-type: none">・県教育委員会及び市町村教育委員会職員（地域学校協働活動担当者、コミュニティ・スクール担当者、指導主事、社会教育主事、社会教育士など）・地域連携を担う教職員（国公立小・中学校及び県立学校）・地域学校協働活動推進員、学校運営協議会委員など				
申込〆切	<ul style="list-style-type: none">・案内は、各市町村教育委員会、小・中・県立学校等にメールでお知らせしております。・参加を希望する方は、下記の二次元コード、URL からお申し込みいただけます。・他地区への参加も可能です。旅費は、所属とご相談ください。・申込〆切は、各研修会の2週間前です。・上北地区会場では、内履きを持参してください。 (会場のスリッパは数に限りがあります。)				
	<p>https://forms.gle/M2zt4QJgm61uomJf8</p>				
お問合せ先	<p>・県教育庁生涯学習課 地域連携推進グループ 担当：宮本 貴文 TEL: 017-734-9890 FAX: 017-734-8272 E-mail: takafumi_miyamoto@pref.aomori.lg.jp</p>				



参加申込二次元コード

西北地区

令和7年度

管内社会教育関係課長・公民館長等及び社会教育担当者会議

5月23日(金)五所川原市中央公民館にて、令和7年度西北管内社会教育関係課長・公民館長等及び社会教育担当者会議が開催されました。令和7年度の社会教育に関する事業等について共通理解を図り、各市町の活性化を図ることを目的に、管内教育委員会担当者と関係者30名が出席しました。

初めに、西北教育事務所から令和7年度社会教育行政の方針と重点・関連事業説明がありました。

次に、情報提供として、当課担当者から、「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に向けて～『コミュニティ・スクールの在り方等に関する検討会議最終まとめ』を中心～」と題して、全国と県内のCSと地域学校協働活動の状況や地域との連携の必要性と課題、今後の取組の方向性、CSと地域学校協働活動の一体的推進の好事例、教育委員会に求められている役割等について説明がありました。

また、管内各市町の教育委員会、梵珠少年自然の家担当者からは、それぞれの地域の特性を活かした魅力ある今年度の開催事業が紹介され閉会しました。



十和田市

令和7年度 十和田市教頭会実務研修会



6月11日(水)十和田市民図書館にて、令和7年度十和田市教頭会実務研修会が開催され、22名が参加しました。

「地域とともににある学校づくりの促進に向けた教頭の役割」について、学校と地域の連携及び協働に配慮した特色ある教育活動を促進するための教頭の役割について明らかにし、今後の改善と充実を図るための研修会です。

当課担当者が講師を務め、前半は、「地域とともににある学校づくりの促進～CSと地域学校協働活動の一体的推進の観点から～」と題して講義し、後半は参加者の皆さんに熟議を体験していただきました。

熟議では、学校運営協議会の課題解決のために、「固定化している委員を若手、女性、地区の代表者など構成を変える」「活動内容の見直しに多様な人材を活用する」「座談会ではなく、テーマを決め、それを深める話し合いをする」などの発表があり、今後の学校運営協議会の運営の参考にしたいとの感想がありました。

※十和田市は、平成28年から大深内中学校区の3校をモデル校として学校運営協議会を設置し(県内初)、令和4年度には市立小中学校22校すべてにCSを導入しました。また、地域学校協働本部も整備率100%。本部は教育委員会内(スポーツ・生涯学習課)に整備し、学校と地域との協働による活動を補完・補強するため、学校のキャリア教育や郷土学習の講師紹介など、学校と地域の橋渡し(コーディネート)をする役割を教育委員会が担っています。



県内市町村教育委員会が、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に向けて主催した事業等をご紹介します。第1回は、青森市教育委員会です。

令和7年度 第1回 学校・家庭・地域が一体となった教育力向上研修講座 ～ コミュニティ・スクール(CS)事例発表会・ミニシンポジウム～

4月28日(月)アピオあおもりにて、青森市教育委員会主催の「第1回 学校・家庭・地域が一体となつた教育力向上研修講座～コミュニティ・スクール(CS)事例発表会・ミニシンポジウム～」が開催され、CS関係者、学校管理職、地域学校協働活動推進員など約120名が参加されました。

青森市は昨年度から「学校・家庭・地域の連携」をテーマにした研修に力を入れており、昨年度は全5回、今年度は全4回計画されており、本日はその1回目に当たります。

今回は、「学校と地域がより一体となるためのCS制度をどのように活用していくべきか」をテーマに、今年度新規にCSが導入された4中学校区12校(※1)が活動の見通しを持てるよう事例発表会が実施されました。

事例発表会では、浦町中学校区、戸山中学校区、浪岡中学校区の中学校区CSD(※2)から15分ずつ発表が行われました。

浦町中学校区からは、こどもたちと地域の方々とのコミュニケーションを深める場として実施した「トークフォーカダンス」(※3)や、「スノーバスターズ」(地域の方々と一緒に行う除雪活動)などの紹介がありました。

戸山中学校区からは、地域を学びと地域貢献の場として活用する「魅力あるまち戸山プロジェクト」として、地域の方々と一緒に行った「藍の栽培」や、「打ち上げ花火」などの紹介がありました。

浪岡中学校区からは、「地域でそだてる思いやりの心」をテーマとして実施した「思いやりの心を育む映画上映会」や浪岡出身でパリ・オリンピックにバドミントン選手として出場した奈良岡功大による「キャリア講演会」などの紹介がありました。

事例発表会後のミニシンポジウムでは、「どのように学校と連携したのか」「大変だったことは何か」「今年度やってみたいことは何か」など、参加者からの質問や感想を中心としたやりとりが繰り広げられ、取組への理解を更に深めることができました。

参加者からは、「どの中学校区も『地域の困りごと』『学校の困りごと』の双方を解消する取組で、大変すばらしいと思った。」「困りごとは日々変化していく。」「『熟議』を通じて、これから解決していくことをみんなで形にしていきたいと思う。」といった感想が多数見られました。新規のCS委員のみならず、既にCSが導入されている学校的CS委員にとっても、たいへん有意義な研修会となりました。

※1) 青森市は平成31年度から中学校区ごとにCSを順次導入しており、令和7年度をもって16中学校区51校への導入が完了しています。(導入率84%)

※2) 青森市は中学校区ごとにCSが導入されているため、各学校のCS委員の連絡・調整を担う「CSD(コミュニティ・スクールディレクター)」が中学校に1名ずつ配置されています。

※3) フォーカダンスのように相手をどんどん変えながら会話する活動。中学生約140名、地域から約100名が参加しました。



事例発表の様子（浦町中学校区）



ミニシンポジウムの様子



参加者が質問する様子